

2025 年海運講習会を開催
～新たな船出に心からのエールを～

当協会は、新入社員の社会人としての門出を祝すと共に、海運業界で働く者としての心構えや自覚醸成に資することを目的として、会員会社の新入社員を主な対象に、1957 年から毎年「海運講習会」を開催しております。

本年は、3 月 31 日に会場（海運ビル）およびライブ配信を活用したハイブリッド形式にて開催し、海運業界や海を舞台に活躍する社会人の先輩方々より下記プログラムのテーマでご講演をいただき、全国各地から 21 社 300 名が受講しました。

受講後の Web アンケートでは、「海上輸送には船会社だけでなく様々な関係各所の協力が必要であることを改めて認識することが出来た」「これから自分が働く『海』という世界の、様々な側面のお話を伺うことができ、大変楽しかった」「海上保安庁や船長といった現場の方々のお話は、海の過酷さが伝わってくる内容で、今後携わるオペレーション業務が、いかに重要かつ責任が大きいことかを実感した」等の感想が寄せられました。

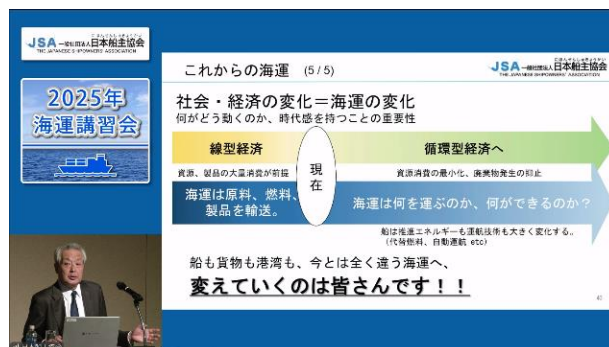
<講演の概要>

1. 「海運における時代感 -これから海運業界に携わる皆さんへ-」 当協会常勤副会長 土屋恵嗣

はじめに、日本における海や海上輸送の重要性を踏まえ、海運が世界の暮らしや産業を支える社会インフラであることを紹介しました。あわせて、外航海運業の特徴や、安全運航・環境対策といった課題への取組みにも触れ、地政学的リスクや気候変動、各国の貿易政策により、海運を取り巻く環境が急速に変化している現状を説明しました。

続いて、人類の誕生とともに始まった船の歴史をたどり、動力源の進化や貨物に応じた専用船への変遷を概観しました。そして今後は、新たな技術の導入や環境対応を通じて、海運がさらに大きな変革を遂げていくことを述べました。

最後に、社会・経済が変化していく中で「海運はこれから何を運び、何ができるのか？」という問いを投げかけ、船・貨物・港湾の姿も大きく変わる新たな時代に向けて、「海運を変えていくのは皆さんです」とのメッセージを贈り、新入社員の皆さんの活躍に期待を寄せました。



講演する土屋副会長

2. 「海というフィールドを選択したみなさまへ」

海上保安庁 総務部 教育訓練管理官付 課長補佐 吉田憲明 氏

海上保安庁 警備救難部国際刑事課 国際刑事渉外官 両角孝志 氏

はじめに海上保安庁の業務について紹介する動画を視聴した後、吉田氏から海上保安官を養成するための教育機関である海上保安大学校や海上保安学校での教育訓練や学生生活等の説明がありました。両角氏からはソマリア沖・アデン湾での海賊対策について、グアナバラ号事件で逮捕された海賊を日本に護送した時の話も交えて説明があったほか、海上保安庁の密輸・密航対策等についても紹介がありました。

最後に、これから社会人となる受講者へ向けて、「何かを乗り越える経験は、その後の仕事人生で自信になる。経験の一つひとつを大切にしてほしい」「船は一人で動かすものではない。心身の健康と、基本動作、仲間を大切にすることを胸にとめてほしい」と激励の言葉が贈られました。



講演の様子

両角氏（左）、吉田氏（右）

3. 船長講話「海は広く、船は小さい」 日本船長協会 常務理事 滝浦文隆 氏

はじめに、船長協会について解説した後、船員用語で「カタフリ」という、海技者がよもやま話をする様子になぞらえて、自身の船上経験を交えながら、船種や航海士と機関士の仕事について解説し、船上での生活についても、写真やクイズ等を交えて受講者を巻き込みながら紹介しました。

また、本船とのコミュニケーション方法として AIS や無線、各種衛星通信といった船舶間・船陸間での通信手段を紹介し、船上と陸上とのコミュニケーションが大切であることを説明しました。

身の回りのアニメ作品や、有名ブランドのロゴ等の例を交えながら、国際信号旗の意味を解説したほか、洋上で国旗を互いに半ば下げることにより敬意を表す「旗合せ」という風習にも言及し、コミュニケーションと、気遣いの重要性を伝えていました。

講演の最後には、「海は広く、船は小さい」というブルターニュの漁師の祈りの一説を引用し、「自然の偉大さと己の小ささを認識し、各々が支えあっていることを忘れぬことが大切」と締めくくり、

受講者の新たな船出を祝いました。



講演する滝浦船長



会場（海運ビル）の様子



質問する受講者

※1：吉田氏は、2003 年、海上保安大学校を卒業後、福島、秋田、宮古島、石垣島で船艇勤務、本庁、那覇、横須賀、横浜で陸上勤務を経験し、現在は本庁総務部教育訓練管理官付課長補佐として、海上保安庁の教育機関である海上保安大学校（広島県呉市）と海上保安学校（京都府舞鶴市）などの教育訓練に関する業務に従事している。

両角氏は、2004 年、海上保安大学校を卒業後、釧路、七尾で船艇勤務、本庁、小樽、名古屋、対馬、舞鶴で陸上勤務を経験し、現在は本庁警備救難部国際刑事課国際刑事渉外官として、海上保安庁の密輸・密航対策部門に係る国内外関係機関との連絡調整に関する業務に従事している。

※2：滝浦氏はコンテナ船、タンカー、鉱石船、自動車専用船、LNG 船などさまざまな船に乗務し、2008 年船長に就任。その後船長として海上勤務や国内外での陸上勤務に従事し、2024 年 2 月に日本船長協会へ着任して以降、全国小中学校を中心に海運の重要性や国際的な視野を啓発する活動を展開している。